

リフォームワイド

現況確認マニュアル ～ 鉄筋コンクリート造～



目次

1. 基本的なルール.....	3
(1) 現況確認のタイミング等.....	3
(2) 現況確認の対象.....	3
(3) 現況確認の基本的なルール.....	3
(4) 判定方法.....	3
(5) 確認対象部位の写真の撮影.....	3
(6) 報告書の作成.....	4
(7) 不具合事象が確認された場合の対応.....	5
2. 確認の対象となる部位.....	6
(1) 戸建住宅.....	6
(2) 共同住宅.....	6
3. 具体的な確認内容.....	7
(1) 建物外部の確認項目(共同住宅は共用部の確認項目).....	7
(2) 建物内部の確認項目(共同住宅は共用部と専有部それぞれの確認項目).....	11
(3) 建物内部の確認項目(共同住宅は専有部の確認項目).....	13
4. 指定箇所の写真撮影.....	14
(1) 撮影箇所一覧.....	14
(2) 撮影イメージ.....	14

1. 基本的なルール

<現況確認とは>

現況確認は、**リフォームワイドを申し込む住宅**について、**予定している工事以外の補修等の工事が必要であるか判断するために、工事の着工前に部位ごとに規定する事象の有無を確認**して行います。

(1) 現況確認のタイミング等

現況確認は**リフォーム工事の着工前**に行います。

(2) 現況確認の対象

戸建住宅は**建物全体が確認の対象**となります。**共同住宅は建物外周部と屋根（屋上）のほか各階の共用部から確認できる部分と全ての住戸を対象**に行います

(3) 現況確認の基本的なルール

場所	足場や勾配屋根に上らず 安全に移動できる場所から目視や計測 で確認して行います。
確認方法	確認方法の明示がある場合を除き、 目視で確認し、状況に応じて双眼鏡や点検鏡を使用 します。
写真撮影	指定箇所の写真を撮影 します。
隠ぺい部	移動できない備え付けの家具や設備で隠れている部分の確認は不要 です。
コンクリート	コンクリートのひび割れ等を確認する確認項目は、 コンクリートが現しになっていない部位での確認は不要 です。
地下ピット	地下ピットがある場合でも、 安全性の観点からピットに立ち入っての確認は行いません 。

(4) 判定方法

確認の対象となる部位ごとに不具合事象の有無を確認し、**確認されなかった箇所は「○」、基礎の立上りがない建物における基礎や、バルコニーのない建物におけるバルコニーなど、検査対象となる部位が無い場合は、事象が確認されなかった箇所と同様に判定結果は「○」**となります。**不具合事象が確認された箇所は「×」**となります。

不具合事象が確認されなかった箇所	不具合事象が確認された箇所
○	×

(5) 確認対象部位の写真の撮影

現況確認の実施時に「**3. 写真の撮影箇所一覧**」に記載の部位を撮影して、**現況検査報告書の写真帳票フォーマットに貼り付け、報告書と一緒に提出**してください。



(6) 報告書の作成

確認の実施後、**ハウスジーン指定書式の報告書(現況確認 実施報告書)**を作成し、**申込時に提出**してください。

👉 報告書は、ハウスジーンホームページの帳票ダウンロードページからダウンロードできます。

(<https://www.house-gmen.com/downloads/reformwide/>)

○ 基本情報の入力

「住宅(物件名)」と「現況確認実施者の氏名」、「現況確認の実施日」を入力します。

住宅(物件)名	〇〇様邸外装リフレッシュ工事		
確認実施者	検査 太郎	確認実施日 (西暦)	2023 年 11 月 10 日

○ 確認結果の入力

確認結果記入欄に、箇所ごとの確認結果を入力します。確認結果の入力ルールは次のとおりです。

判定が「○」となった箇所	判定が「×」となった箇所
○	×

判定欄への確認結果の入力は、「○」が「×」を入力して行いますが、床の傾斜の確認結果は、**最大の傾斜が確認された場所と、その測定結果の入力**を行います。

検査項目		判定
基礎	幅0.5mm以上のひび割れ、鉄筋の露出等	○
床	著しいひび割れ、鉄筋の露出等 6/1000以上の傾斜 最大傾斜値(2)/1000・計測場所(1)階 (ダイニングキッチン)	○
柱・梁 (※2)	著しいひび割れ、劣化、欠損	○

○ 写真の貼付

現況結果 実施報告書の「📷写真帳票」のシートに、**(5)で撮影した写真を貼り付け**ます。

報告書

ハウスジーン <small>リフォームワイド</small>			
現況確認 実施報告書 (RC造)			
住宅物件名	〇〇様邸外装リフレッシュ工事		
確認実施者	検査 太郎 <small>確認実施日 (西暦)</small> 2023 年 11 月 10 日		
判定記入欄	<input type="checkbox"/> 指摘無し・該当無し * 指摘有り		
検査項目		判定	
基礎	幅0.5mm以上のひび割れ、鉄筋の露出等	○	
床	著しいひび割れ、鉄筋の露出等 6/1000以上の傾斜 最大傾斜値(2)/1000・計測場所(1)階 (ダイニングキッチン)	○	
柱・梁 (※2)	著しいひび割れ、劣化、欠損	○	
外装	幅0.5mm以上のひび割れ、鉄筋の露出等(コンクリート打設し又は塗装仕上げ)	○	
	下地材まで達するひび割れ等、外装材の劣化等(タイル仕上げ/湿式工法)又は塗装仕上げ	○	
バルコニー 共用部下 (※2)	支持部材、床の著しいひび割れ、ひび割れ、劣化(ひび、エフロレッセンス)又は鉄筋の露出等	○	
内装 (※2)	幅0.5mm以上のひび割れ、鉄筋の露出等(コンクリート打設し又は塗装仕上げ)	○	
天井 (※2)	幅0.5mm以上のひび割れ、鉄筋の露出等(コンクリート打設し又は塗装仕上げ)	○	
屋根	防水層の著しい劣化等、水切り金物等の不具合(上ルーフ/バルコニー・共用部下等含む)	○	
	外装	シーリング材の破断等、器具の著しい開閉不良	○
	内装	雨漏り跡	○
天井	雨漏り跡	○	
備考	検査マニュアルは こちらからダウンロードできます。 	結果判定 ○	
<small> 1) 住宅物件名と確認実施者の氏名の記載は正しいか 2) 確認実施日の記載は正しいか 3) 必要写真の貼付はあるか 4) 科学・総合研究所の記入漏れはないか (※1) 検査方法と検査結果が異なる場合に現場検査する (※2) コンクリートが露出している場合に鋼り筋露出の対象となる </small>			

IP230613-196(1)

写真帳票①

住宅物件名		〇〇様邸外装リフレッシュ工事
ハウスジーン現場検査 写真帳票 【撮影 必須 項目】		
No.	撮影箇所	添付写真欄
1	全景	
2	外装シーリング (見えている場合) (例) 窓枠周囲部 のひび割れや目地 外装材目地 割れスリット目地	
3	居室内観 (全体で1枚)	

IP230613-196(1)

写真帳票②（事象が確認された場合）	
住居物件名	〇〇様邸外装リフレッシュ工事
ハウスメーカー	写真帳票
撮影箇所	【撮影 指図 項目】
	添付写真欄
指図箇所 No.1 ()	
指図箇所 No.2 ()	(写真のタテヨコ比率は変更禁止)
指図箇所 No.3 ()	(写真のタテヨコ比率は変更禁止)

IP220813-187(1)

(7) 不具合事象が確認された場合の対応

現況確認で不具合事象が確認された場合は、**是正を行わないと保険に加入することはできません**。リフォーム工事と合わせて是正工事も行ってください。

- ・保険の申込時に是正工事の内容を申告のうえ、是正工事の対象箇所を記載した平面図や立面図を提出してください。
- ・是正の実施状況は、メンテナンス工事の完了後に実施する現場検査で確認します。

2. 確認の対象となる部位

(1) 戸建住宅

建物外部	基礎・外壁	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">共通</div> コンクリートのひび割れや欠損が生じていないか <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">外壁</div> シーリング材の切れや建具の開閉不良が生じていないか
	屋上	防水層の著しい劣化といった事象が生じていないか
建物内部	床	規定値以上の傾斜が生じていないか
	柱、梁、床	★ 著しいひび割れといった事象が生じていないか
	内壁・天井	★ コンクリートのひび割れや欠損が生じていないか 雨染みが付いていないか
	バルコニー	支持部材のぐらつきやひび割れが生じていないか

(注) ★が付いた項目は、打ちっ放し上げの場合などコンクリートが露出している場合に確認する。

(2) 共同住宅

共用部	基礎・外壁	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">共通</div> コンクリートのひび割れや欠損が生じていないか <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">外壁</div> シーリング材の切れや建具の開閉不良が生じていないか
	共用廊下(開放廊下)	支持部材のぐらつきやひび割れが生じていないか
	屋上	防水層の著しい劣化といった事象が生じていないか
共用部・専有部	床	規定値以上の傾斜が生じていないか
	柱、梁、床	★ 著しいひび割れといった事象が生じていないか
	☆ 内壁・天井	★ コンクリートのひび割れや欠損が生じていないか 雨染みが付いていないか
専有部	バルコニー	支持部材のぐらつきやひび割れが生じていないか

(注1) 共用部における☆の部位は、共用部に部屋うちになっている部分がある場合に確認する。

(注2) ★が付いた項目は、打ちっ放し上げの場合などコンクリートが露出している場合に確認する。



3. 具体的な確認内容

(1) 建物外部の確認項目(共同住宅は共用部の確認項目)


基礎、外壁		
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
	建物の内外から確認できる基礎と外壁	建物の内外と各階の共用部から確認できる基礎と外壁
確認方法	<p>コンクリート打ち放し・塗装仕上げ共通の確認事項</p> <p>✓ 幅 0.5mm以上のひび割れ コンクリートにひび割れが発生していないか確認する。 ➔ ひび割れがある場合は、クラックスケールで幅を計測し、幅が0.5 mm以上ないか確認する。</p>	
	 <p>☞ 確認の様子</p>	 <p>☞ 外壁のクラック</p>
	 <p>☞ 基礎のクラック</p>	 <p>☞ 計測の様子</p>
	<p>コンクリート表面の化粧モルタルのみのひび割れ等は上記のひび割れには該当しない。</p>	
	<p>✓ 深さ 20mm 以上の欠損 コンクリートに部分的な欠損が発生していないか確認する。 ➔ 欠損がある場合は、ピアノ線を差し込んで深さを計測し、欠損の深さが 20 mm以上ないか確認する。</p>	
		 <p>☞ コンクリートの欠損</p>
	<p>✓ コンクリートの著しい劣化 コンクリートに広範囲にわたるひび割れや欠損、ジャンカが発生していないか確認する。</p>	
		 <p>☞ 外壁のジャンカ</p>
<p>✓ さび汁を伴うひび割れ、欠損（エフロレッセンス含む） コンクリートにさび汁やエフロレッセンスを伴うひび割れや欠損が生じていないか確認する。</p> <p>ひび割れや欠損がなくエフロレッセンスのみ生じている場合はは該当しない。</p>		
<p>✓ 鉄筋の露出 コンクリートから鉄筋が露出していないか確認する。</p>		
	 <p>☞ 鉄筋の露出</p>	

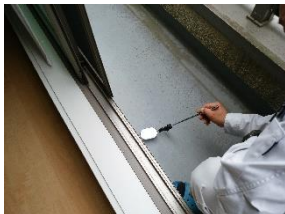
確認方法	タイル・塗装仕上げ共通の確認事項	
	<p>✓ 外壁下地材まで到達するひび割れ、欠損、浮き、はらみ、剥落</p> <p>外壁に次の事象が生じていないか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 下地材まで達するようなひび割れ ▶ 外壁材の部分的な欠損 ▶ 外壁材の浮きやはらみ、剥がれ 	 <p>☞ モルタルのクラック</p>  <p>☞ 確認の様子</p>
	ひび割れの確認には、必要に応じて双眼鏡を使用する。	
	<p>✓ 仕上げ材の著しい浮き</p> <p>仕上材に浮きが発生していないか確認する。浮きの確認は、必要に応じて外壁材の表面に打診棒を転がして打診を行い確認する。</p>	 <p>☞ 打診の様子</p> 
タイル仕上げの確認事項		
<p>✓ 複数の仕上げ材にまたがったひび割れ、欠損</p> <p>ジョイントを跨ぐ外壁材のひび割れや欠損が生じていないか確認する。</p>	 <p>☞ タイル仕上げの外壁</p>	
ひび割れの確認には、必要に応じて双眼鏡を使用する。		
その他の仕上げの場合		
その他の仕上げ材を使用している場合は類似する仕上げに準じた方法で確認する		

外壁		
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
	建物の内外から確認できる開口部	建物の内外と各階の共用部から確認できる開口部
確認方法	<p>✓ 建具の周囲の隙間または建具の著しい開閉不良</p> <p>建具に次の事象が生じていないことを確認する。開閉不良は、建具のうち開閉できるものを開け閉めして確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 建具周囲の隙間 ▶ 開閉不良 <p>・ 建具の周囲の確認には、必要に応じて双眼鏡や点検鏡を使用する。</p> <p>・ 雨戸と網戸は確認の対象に含まない。</p>	

外壁		
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
		建物の内外から確認できる外壁のシーリング
確認方法	<p>✓ シーリング材の破断または欠損 シーリング材を貫通するような切れや欠損が生じていないことを確認する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>☞ シーリング材の切れ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>☞ シーリング材の欠損</p> </div> </div> <p style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> ・シーリング材の確認には、必要に応じて双眼鏡や点検鏡を使用する。 ・止水機能が期待されていない化粧目地等のシーリング材は確認の対象に含まない。 ・この項目の確認結果は、検査報告書の雨水の欄に入力する。 </p>	


共用廊下(開放廊下)		
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
		各階の共用廊下
確認方法	<p>✓ 支持部材、床の著しいぐらつき、ひび割れまたは劣化(さび汁、エフロレッセンスまたは鉄筋の露出を含む) 共用廊下の支持部材や床に次の事象が生じていないことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 床のぐらつき ▶ 床の割れや劣化 ▶ さび汁やエフロレッセンス ▶ 鉄筋の露出 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>☞ 共用廊下</p> </div> <p style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> ・支持部材には、共用廊下を構成する柱や梁といった構造材が該当する。 ・金属製や木製の手すりは支持部材に該当せず、確認の対象とならない。 </p>	

屋上		
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
		立入や目視できる屋上
確認方法	<p>✓ 防水層の著しいひび割れ、劣化または欠損</p> <p>防水材に次の事象が生じていないか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 下地まで達するようなひび割れ ▶ 大きく口を開くような防水材の端部の剥がれ ▶ トップコートの剥がれや表面のひび割れ <p>・見づらい立上り部分の確認は、点検鏡を使用して行う。</p> <p>・移動できるスノコや敷物が敷かれており、防水材が見えない部分がある場合は移動して確認を行う。</p> <p>・排水ドレンと防水層の接続部分の周囲が汚れている場合は汚れを取り払ってから確認を行う。</p>	
		 <p>☞ 屋上の様子</p>
	 <p>☞ トップコートの剥がれ</p>	



屋上		
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
		立入や目視できる屋上
確認方法	<p>✓ 水切り金物等の不具合</p> <p>水切り金物とその周囲に次の事象が生じていないか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 防水材の立ち上がり端部の水切り金物の不具合 ▶ 水切り金物端部のシーリング材の貫通するような切れ。 	
		 <p>☞ 点検鏡使用の様子</p> <p>見づらい立上り部分の確認は、点検鏡を使用して行う。</p>

(2) 建物内部の確認項目(共同住宅は共用部と専有部それぞれの確認項目)


床				
確認の要否	<p>共同住宅の共用部の床の傾斜は、排水勾配のない部分が見当たらない場合は確認不要 共同住宅の住戸内の床の傾斜は、床のコンクリートが現れている場合に確認する</p>			
確認の対象	戸建住宅			
	共同住宅			
	<p>各階の床 1箇所(廊下も可)で、 縦、横、斜めの3方向</p>			
	<p>各階の共用部と住戸内の床の各 1箇所 縦、横、斜めの3方向</p>			
確認方法	<p> ✔ 床の 6/1000 以上の勾配の傾斜 床の水平面に対する「縦方向、横方向、斜め方向」の3方向の傾きを、デジタル水平器を床に置いて測定し、6/1000(勾配(%))表示で 0.60%)以上の傾斜が生じていないか確認する。 </p> <div style="text-align: right;">  </div> <div style="background-color: #fff2cc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・傾斜の測定は、デジタル水平器で行うこと前提としているが、傾きを数値化できるものであれば、レーザーレベル等の測定器を使用することでも構わない。 ・使用するデジタル水平器のサイズは問わないが、小数点が第2位までが表示されるものを使用する。 ・デジタル水平器は、勾配(%)表示で測定を行い、小数点第1位の数字を1/1000の分子の1の位に読み替えて傾斜を判断する。(0.34%の場合は、3.4/1000) </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <div style="background-color: #f4cccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・畳の上や、浴室、洗面所、トイレでは、正確な数値を測定できないため、検査の対象としないこと ・共同住宅の共用部の床の傾斜の測定は、排水勾配が設けられていない箇所で行うこと </div>			
測定方向	<p>平面図の方角に関係なく、部屋名が読める向きを上として上下方向を縦方向、左右方向を横方向として扱い、斜めはいずれか一方を測定する。</p> <div style="text-align: right;">  </div>			
測定例	<p><デジタル表示付水平器での測定例></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>👉 縦方向の計測の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>👉 横方向の計測の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>👉 斜め方向の計測の様子</p> </div> </div>			
報告書への記載方法	<p>計測箇所のうち 1番大きい値が出た測定箇所の計測値と階数、部屋名を入力します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">床</td> <td style="width: 70%;"> 著しいひび割れ、鉄筋の露出等 6/1000以上の傾斜 最大傾斜値(2)/1000・計測場所(1)階 (ダイニングキッチン) </td> <td style="width: 20%; text-align: center;">○</td> </tr> </table>	床	著しいひび割れ、鉄筋の露出等 6/1000以上の傾斜 最大傾斜値(2)/1000 ・計測場所(1)階 (ダイニングキッチン)	○
床	著しいひび割れ、鉄筋の露出等 6/1000以上の傾斜 最大傾斜値(2)/1000 ・計測場所(1)階 (ダイニングキッチン)	○		

★ 柱、梁、床		
確認の要否	この項目は、柱や梁、床のコンクリートが現しになっている場合に確認する。	
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
	全ての居室	各階の共用部と全ての住戸の全ての居室から確認できる部分
確認方法	<p>✓ 著しいひび割れ、劣化または欠損(錆汁、エフロレッセンスまたは鉄筋の露出を含む) 柱や、梁、床のコンクリートに次の事象が生じていないことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 広範囲にわたるひび割れや欠損、ジャンカ ▶ さび汁やエフロレッセンス ▶ 鉄筋の露出 <p>エフロレッセンスのみ生じている場合は上記の事象には該当しない。</p>	
		 <p>☞ 外壁のジャンカ</p>

★ 内壁、天井		
確認の要否	この項目は、内壁や床のコンクリートが現しになっている場合に確認する。共同住宅の共用部は、部屋うちになっている部分がある場合に確認する。	
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
	全ての居室	各階の共用部と全ての住戸の全ての居室
確認方法	内壁の確認事項	
	<p>✓ 幅 0.5mm以上のひび割れ コンクリートにひび割れが発生していないか確認する。</p> <p>➔ ひび割れがある場合は、クラックスケールで幅を計測し、クラックの幅が 0.5 mm以上ないか確認する。</p>	
	<p>✓ 深さ 20mm 以上の欠損 コンクリートに部分的な欠損が発生していないか確認する。</p> <p>➔ 欠損がある場合は、ピアノ線を差し込んで深さを計測し、欠損の深さが 20 mm以上ないか確認する。</p>	
	<p>☞ 内壁のクラック</p>  <p>☞ 内壁の欠損</p> 	
内壁・天井共通の確認事項		
<p>✓ コンクリートの著しい劣化 コンクリートに広範囲にわたるひび割れや欠損、ジャンカが発生していないか確認する。</p>		 <p>☞ 内壁のジャンカ</p>  <p>☞ 鉄筋の露出</p>
<p>✓ さび汁を伴うひび割れ、欠損 (エフロレッセンスを含む) コンクリートにさび汁やエフロレッセンスを伴うひび割れや欠損が生じていないか確認する。</p> <p>エフロレッセンスのみ生じている場合は上記の事象には該当しない。</p>		
<p>✓ 鉄筋の露出 天井や内壁のコンクリートから鉄筋が露出してないか確認する。</p>		

内壁、天井		
確認の可否	共同住宅の共用部は、部屋うちになっている部分がある場合に限り確認する。	
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
	全ての居室	各階の共用部と全ての住戸の全ての居室
確認方法	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 雨染みの跡 内壁と天井に雨染みが生じていないことを確認する。建具の周囲は、窓台や敷居の雨漏りの跡や腐食、窓枠周辺のシミが生じてないことも確認する。 </p> <p style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">カーテンがある場合は、建具周囲の見落としに注意する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>👉 居室内の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>👉 窓枠周辺の雨染み跡の様子</p> </div> </div>	

(3) 建物内部の確認項目(共同住宅は専有部の確認項目)

バルコニー		
確認の対象	戸建住宅	共同住宅
	全てのバルコニー	全てのバルコニー
確認方法	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 支持部材、床の著しいぐらつき、ひび割れまたは劣化(さび汁、エフロレッセンスまたは鉄筋の露出を含む) バルコニーの支持部材や床に次の事象が生じていないことを確認する。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 床のぐらつき ▶ 床の割れや劣化 ▶ さび汁やエフロレッセンス ▶ 鉄筋の露出 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>👉 バルコニー</p> </div> <p style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・ 支持部材には、バルコニーを構成する柱や梁といった構造材が該当する。 ・ 金属製の手すりは支持部材に該当せず、確認の対象とならない。 </p>	




4. 指定箇所の写真撮影

(1) 撮影箇所一覧

👉 「外部シーリング」、「バルコニー」、「屋上」の写真は該当する部位が無く、確認を行わない場合は撮影不要

No.	提出写真	
1	全景	建物の全景（全体）が写り込むように撮影した写真
2	外部シーリング	確認の対象となった外部のシーリングの写真
3	居室内観	開口部が写り込むように撮影した居室の写真
4	バルコニー防水層	バルコニーの防水材の写真
5	バルコニー排水ドレン	バルコニーの排水ドレンが写り込むように撮影した写真
6	屋上防水層	屋上の防水材の写真
7	屋上排水ドレン	屋上の排水ドレンが写り込むように撮影した写真
不備	指摘箇所	指摘箇所が分かるように撮影した写真

(2) 撮影イメージ

撮影箇所	全景	
ポイント	建物の全景（全体）ができる限り写り込むように撮影する	
撮影箇所	外部のシーリング	
ポイント	確認の対象となった外部シーリングを撮影する。 <input checked="" type="checkbox"/> 露出しているシーリングがなく外部シーリングの確認を行わない場合は撮影不要 <input checked="" type="checkbox"/> 開口部周囲やコンクリート打継ぎ目地、外装材目地、耐震スリット目地などを撮影する	
撮影箇所	居室内観	
ポイント	居室の内観を開口部が写り込むように撮影する。	

撮影箇所	バルコニー防水層	
ポイント	<p>バルコニーの防水材を撮影する</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 戸建住宅は確認対象となるバルコニーがある場合に撮影する。 ✓ 共同住宅は共用廊下(開放廊下)がある場合に共用廊下の防水材を撮影する。 <p style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">取外しができるタイル等が敷いてある場合はは取外して撮影する。</p>	
撮影箇所	バルコニー排水ドレン	
ポイント	<p>バルコニーの排水ドレンが写り込むように撮影する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 戸建住宅は確認対象となるバルコニーがある場合に撮影する。 ✓ 共同住宅は共用廊下(開放廊下)がある場合に、共用廊下の排水ドレンを撮影する。 <p style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">取外しができるタイル等が敷いてある場合は取外して撮影する。</p>	
撮影箇所	屋上防水層	
ポイント	<p>屋上の防水材を撮影する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 確認対象となる屋上がある場合に撮影する。 <p style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">取外しができるタイル等が敷いてある場合は取外して撮影する。</p>	
撮影箇所	屋上排水ドレン	
ポイント	<p>屋上の排水ドレンが写り込むように撮影する</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 確認対象となる屋上がある場合に撮影する。 <p style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;">取外しができるタイル等が敷いてある場合は取外して撮影する。</p>	

ご意見・ご不明点は下記連絡先までお問い合わせください。

瑕疵検査室 TEL：03-5408-8484